

# 平成16年 ホッケ計量魚群探知機調査報告

北海道立稚内水産試験場資源管理部 電話：0162-32-7177（岡田）

- 4月26～30日に仙法志堆海域（利尻根・折込根周辺）において、試験調査船北洋丸により魚群探知機調査を実施し、音響データを収集しました(図1)。
- 水温は、昨年(平成15年)同時期より1～2 高めでした(図2)。
- その他の魚を含めた魚群の全体量は、折込根では昨年同時期と同程度、利尻根では1.5倍程度でした(図3)。
- 釣りでは、体長19～21cm と、ついで体長24～26cmが多く見られました(図4)。これは昨年度よりも小さめです。ただし、利尻根では釣れた尾数の6割以上が、また折込根では2割以上が、ホッケ以外の魚種（主にアカガヤ）でした（図表省略）。
- これらの結果から、今年の仙法志堆では、ホッケの全体量は昨年と同程度かやや多いものの、大型魚の資源状態が悪いことが懸念されます。

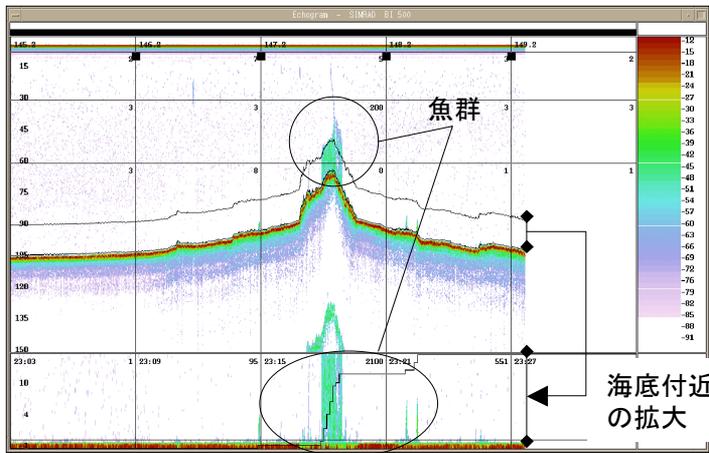


図1 利尻根付近のエコーグラム（魚探画面）

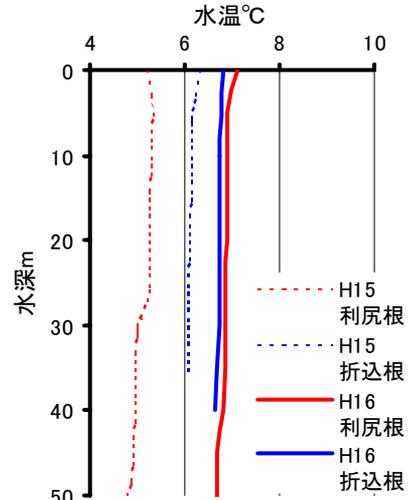


図2 調査海域における水温

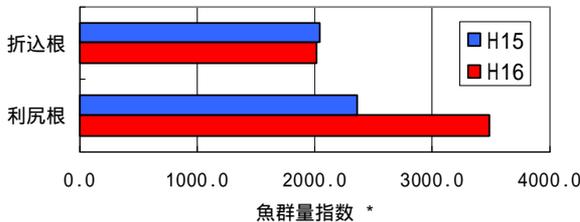


図3 分布していた魚群量の比較

魚群量指数：魚の総量を魚探反応を基準にして表した数値です。

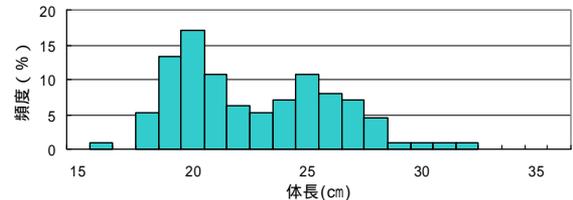


図4 折込根で釣れたホッケの体長組成

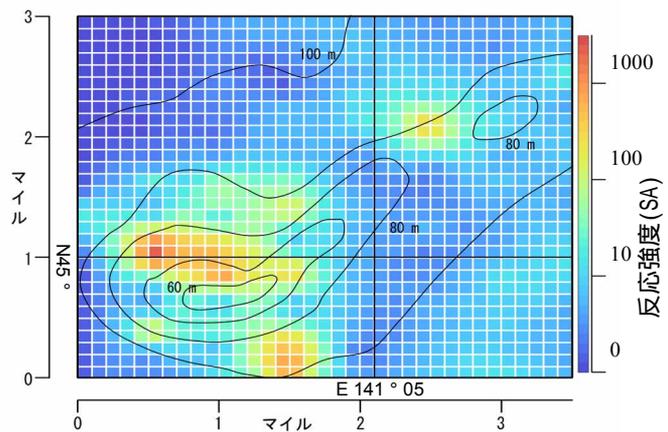
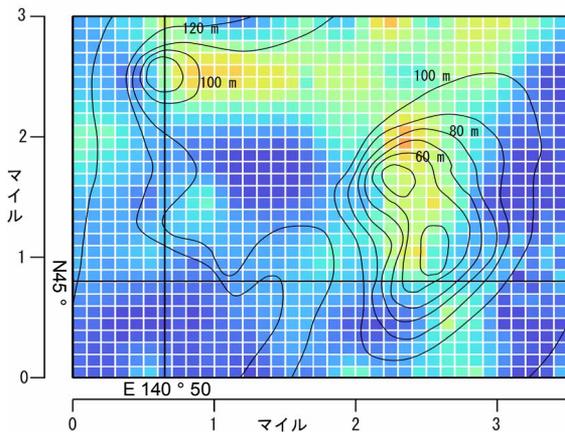


図5 魚探反応の強さで表した魚群分布（左：折込根、右：利尻根）  
（色が赤に近い場所ほど、魚が多く分布する）